

体育科・保健体育科における 見方・考え方、学びに向かう力・人間性等 について

目標

(柱書)

(見方・考え方)を働かせ、(学習過程)を通して、(資質・能力の趣旨)資質・能力を次のとおり育成することを目指す

(資質・能力の柱ごとの目標)

知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力・人間性等

内容

(知識及び技能)

(思考力、判断力、表現力等)

中核的な概念の深い理解 (仮称)		複雑な課題の解決 (仮称)
● 年 相 当	・ ・ ・	・ ・ ・
● 年 相 当	・ ・ ・	・ ・ ・
(内容の取扱)		

① 現在、各教科等の目標の柱書の中に記載のある「見方・考え方」について

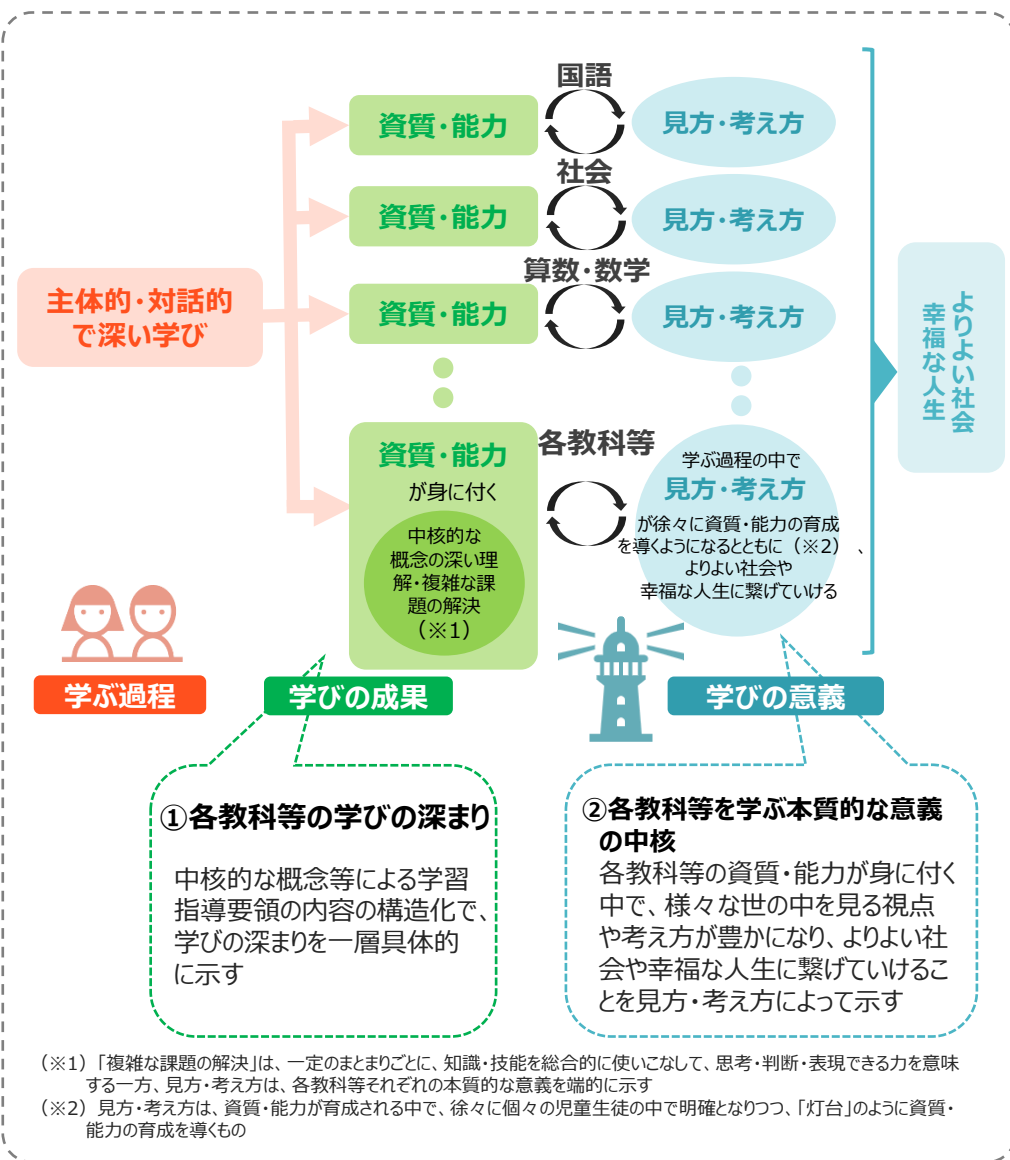
→ 見方・考え方の役割の改善イメージ（資質・能力の育成を的確な方向性に導くとともに、よりよい社会や幸福な人生に繋げていける学びの本質的な意義として整理する）を踏まえた検討

② 資質・能力の柱ごとの目標の1つである

「学びに向かう力・人間性等」について
→ 前回の議論を踏まえた「資質・能力の中での改善イメージ」及び「構成する要素」の検討
→ 次回以降の「目標」の検討につなげる

①見方・考え方

今後の見方・考え方の役割の改善イメージ



改善イメージ

目標

～以下の資質・能力を育成することを目指す。
(目標での見方・考え方の記載ぶりは別途検討)

(例) 事象を、数量や図形及びそれらの関係などに着目して捉え、論理的、統合的・発展的に考える

知・技 思・判・表 学・人

②本質的意義

教科の本質的な意義に焦点化して端的に示すことで教科を学ぶ本質的な意義を分かりやすく本則上で示すことができる

内容

中核的な概念の深い理解(仮) 複雑な課題の解決(仮)

(例) 関数を使えば未知の状況を予測できる

(例) 現実の事象を数式でモデル化し、未知の状況を予測して、具体的な解決策を選択する

知・技 思・判・表

(例) 比例・反比例の理解、一次方程式の解き方

(例) 二つの数量の変化・対応関係を見出し、式やグラフを用いて考察する

①学びの深まり

学びの深まりは中核的な概念等による構造化の中で、内容に即して具体的に示す

※従前の見方・考え方の整理は、見方・考え方が資質・能力の一部と誤解される遠因となっていたことから改善を図り、見方・考え方は、資質・能力(中核的な概念等を含む)の育成を的確な方向性に導くとともに、よりよい社会や幸福な人生に繋げていける学びの本質的な意義として整理する

1. 見方・考え方を含む目標の柱書きの示し方と改善の方向性

【現行】各教科等の目標の柱書（例：中学校国語）

言葉による見方・考え方を働かせ（見方・考え方）、言語活動を通して（学習過程）、国語で正確に理解し適切に表現する資質・能力（資質・能力の趣旨）を次のとおり育成することを目指す

【現行の解説】見方・考え方の記述

「対象と言葉、言葉と言葉との関係を、言葉の意味、働き、使い方等に着目して捉えたり問い直したりして、言葉への自覚を高めること」

<現行の記述ぶりの課題>

- 現在、各教科等の目標の柱書には、①見方・考え方、②教科に特徴的な活動、③資質・能力の趣旨が記載されており、冗長で分かりにくいとの指摘。一方、特に「見方・考え方」の具体は解説に落とされており、併せて読まないといけない。

<論点整理で示されたこと>

- 論点整理では、「見方・考え方」を、各教科等を学ぶ本質的な意義の中核に焦点化した上で、その具体を、解説ではなく学習指導要領本体に位置付ける方向性を示している
- また、論点整理では、「見方・考え方」の意義について、「教科固有の様々な世の中を見る視点や考え方が豊かになることで、徐々に資質・能力の育成を導く」といった観点だけでなく、「よりよい社会や幸福な人生に繋げる」とも位置付けており、学校教育のみならず、その後の人生でも豊かに働くことを視野に入れている

分かりやすく、使いやすいを目指す上で

- 特定の学校種・教科で育成したい資質・能力の趣旨等を端的に表す目標の柱書に、卒業後まで視野に入れた見方・考え方まで含めて書き下すと焦点が定まらなくなる
- 目標の柱書は、育成したい資質・能力の趣旨や固有の学習過程を端的に示すべきであり、見方・考え方は、目標直下に別途欄を設け記載してはどうか

2. 1.を踏まえた書きぶり（イメージ）

（目標）

- ● する資質・能力（資質・能力の趣旨）について、● ● することなどを通して（学習過程）、次のとおり育成することを目指す。

知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力・人間性等
--------	--------------	--------------

（見方・考え方）

- ● （当該教科で扱う事象や対象）を● ● （当該教科固有の物事を捉える視点）の視点から捉え（に着目して捉え）、● ● （当該教科固有の考え方や判断の仕方）すること。

（見方・考え方を含める要素）

- 見方・考え方については、以下のような要素を含めることを基本に、各教科等の特質に応じて検討してはどうか
 - ① 当該教科等が扱う事象や対象
 - ② 当該教科固有の物事を捉える視点
 - ③ 当該教科固有の考え方や判断の仕方
- これらの要素を示す事により、教師が児童生徒の学習・指導を構想する際に「教科の本質を外していないか」を確かめられるものとなっているかという視点を大切にすることが重要ではないか

（見方・考え方の書きぶりに共通する留意事項）

- これまで各教科等の見方・考え方の書きぶりで示していた各教科等の深まりの鍵を示す部分は、構造化により示す中核的な概念等を通じて示すこととしているため、新たな見方・考え方の書きぶりについては現在よりも短く端的に示すことを基本としてはどうか
- 当該教科等を学ぶ本質的な意義の中核をわかりやすく示す観点からは、経験の浅い教師が読んでも端的に理解可能な記述となっているかという視点を重視して示し方を検討してはどうか（学習・指導を通じて、最終的に児童生徒が意識できるかという点も留意）

体育の新たな「見方・考え方」イメージ

見方・考え方（各教科等を学ぶ本質的な意義の中核）

各教科等の資質・能力が身に付く中で、**様々な世の中を見る視点や考え方が豊かになり、よりよい社会や幸福な人生に繋げていけること**を見方・考え方によって示す

主体的・対話的で
深い学び



資質・能力が
身に付く



幸福な人生
よりよい社会

<書きぶりイメージ>

（教科で扱う事象や対象）を
（教科固有の物事を捉える視点）の視点から捉え（に着目して捉え）
（教科固有の考え方や判断の仕方）すること

<留意点>

- ◎ 現行より**短く端的に**（各教科の深まりの鍵は「中核的な概念等」を通じて）
- ◎ **経験の浅い教師が読んでも端的に理解可能**な記述に

体育



学校における学びの意義・価値等



- 身体を媒介に運動学習を行うという独特の学習方法を有し、「運動・スポーツの価値」を体感できるとともに、非認知能力を含む身体的・社会的・情意的スキルの育成に大きな力を発揮する強みがある。
- 全ての子供に運動・スポーツとの多様な関わりを保証するとともに、人と関わりながら自分らしく健康で生き生きとした人生を送る基盤づくりに貢献する、知・徳・体のバランスを支える不可欠な学び。
- デジタル技術が発展する中で、「身体を通じた人間性の醸成」「社会性の育成」「自己理解の深化」の場としての意義・価値を有する。
- 授業における多様性の包摂を通じて、自らの豊かなスポーツライフを舵取りする力と、スポーツを通した誰も取り残さない共生社会の創り手の育成の両方を目指すことができる。



見方・考え方（各教科等を学ぶ本質的な意義の中核）

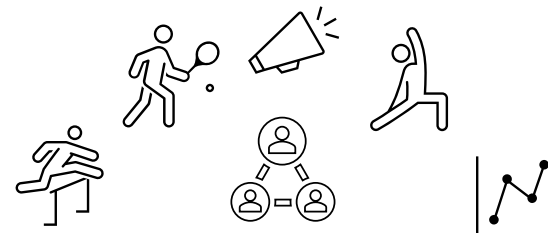
現行

運動やスポーツを、その価値や特性に着目して、楽しさや喜びとともに体力の向上に果たす役割の視点から捉え、自己の適性等に応じた「する・みる・支える・知る」の多様な関わり方と関連付けること。

92字

改訂案

運動やスポーツを、全ての人のための自由な楽しみ方や、心身の充実に果たす役割の視点から捉え、
「する、みる、支える、知る」などの多様な関わり方を通じて、自他の豊かな生涯の実現を目指すこと。 93字



【全ての人のための自由な楽しみ方や、心身の充実に果たす役割】

- ・ 改正スポーツ基本法の趣旨（スポーツを通じた社会課題の解決、スポーツ権の実質化、国民や社会全体のウェルビーイングの向上）を踏まえた見方
- ・ 運動やスポーツは自由で楽しい、共生社会にも通じる開かれたものという見方
- ・ 運動やスポーツを通じて、身体的・精神的・社会的に良い状態（ウェルビーイングな状態）を実現し、自身の可能性の最大化を図るという見方

【「する、みる、支える、知る」などの多様な関わり方を通じて、自他の豊かな生涯の実現】

- ・ 学校現場において理解が深められつつある「する、みる、支える、知る」をベースとし、「つくる」「はぐくむ」「あつまる」「つながる」といった要素にも留意しつつ、誰もが自分らしく運動・スポーツにアクセスし、自身の生涯と関連付けるという考え方や判断の仕方

保健の新たな「見方・考え方」イメージ

見方・考え方（各教科等を学ぶ本質的な意義の中核）

各教科等の資質・能力が身に付く中で、**様々な世の中を見る視点や考え方が豊かになり、よりよい社会や幸福な人生に繋げていけること**を見方・考え方によって示す

主体的・対話的で
深い学び



資質・能力が
身に付く



幸福な人生
よりよい社会

<書きぶりイメージ>

（教科で扱う事象や対象）を
（教科固有の物事を捉える視点）の視点から捉え（に着目して捉え）
（教科固有の考え方や判断の仕方）すること

<留意点>

- ◎ 現行より**短く端的に**（各教科の深まりの鍵は「中核的な概念等」を通じて）
- ◎ **経験の浅い教師が読んでも端的に理解可能な記述に**

保健



学校における学びの意義・価値等



- 学齢期の健康や安全に関する課題の克服、リスクの軽減に資するとともに、生涯を通じて、身体的・精神的・社会的に良い状態で豊かな生活を送る上での基礎を培う役割がある。なお、学校は、発達段階を踏まえつつ、保健について計画的かつ系統的に学ぶことのできる最適な場所と考えられる。
- 知識の集積に止まらない健康に関する原則・概念を習得することにより、健康に関わる自己決定能力を育み、未知の健康課題にも対応できる柔軟で持続的なコンピテンシーを身に付けることができる。
- 学習内容を日常生活で行動化する実践力を身に付けることで、現代的課題を含めた様々な課題に対応することができるようになるとともに、保健・安全に関するより良い社会を含む環境の創造に主体的・協働的に参画できる力を育てることにつながる。



見方・考え方（各教科等を学ぶ本質的な意義の中核）

現行

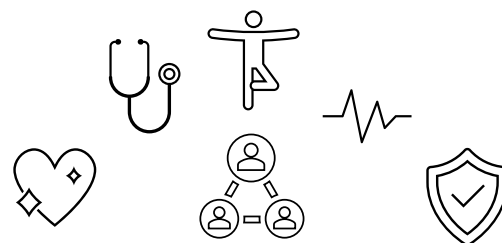
個人及び社会生活における課題や情報を、健康や安全に関する原則や概念に着目して捉え、疾病等のリスクの軽減や生活の質の向上、健康を支える環境づくりと関連付けること。

80字

改訂案

保健に関する課題や情報を、**健康や安全に関する概念**に着目して捉え、**リスクの軽減や生活の質の向上及び健康・安全を支える環境づくりを目指すこと。**

69字



【健康や安全に関する概念】

- ・ 保健に関する課題や情報を、心身の健康や安全に関する概念（例：傷害を防止するためには危険を予測し適切な対策を行うことが必要であること、感染症は病原体が主な要因であること、傷害は人的要因や環境要因等の関わりにより発生すること）に照らしながら捉えること

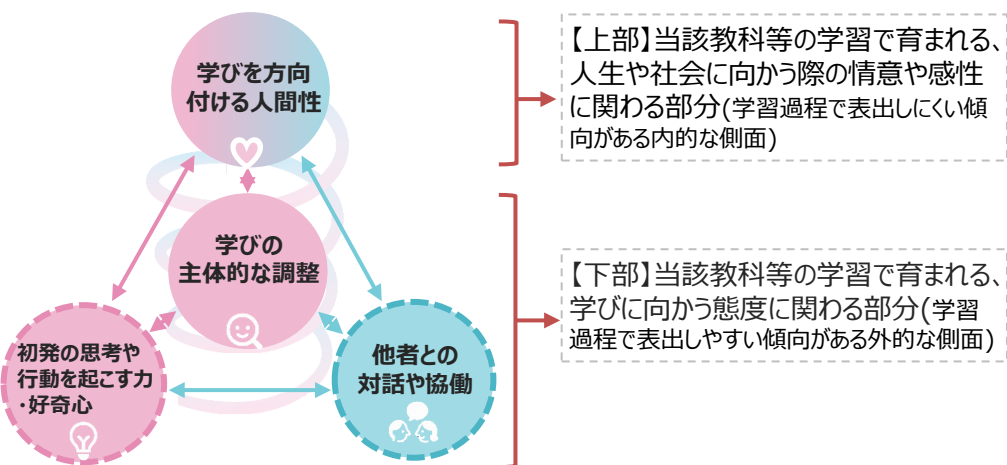
【リスクの軽減や生活の質の向上及び健康・安全を支える環境づくりを目指す】

- ・ 疾病や傷害等の発生を防いだり、リスクを軽減したりするとともに、ウェルビーイングな状態につながる生活の質の向上を図る考え方や判断の仕方
- ・ 個人の生活はもとより、自然、社会、情報を含む未来の健康・安全を支える環境を、主体的・協働的に創造する考え方や判断の仕方

② 学びに向かう力・人間性等

1. 論点整理で示された方向性及び企画特別部会での議論

- 論点整理では、「学びに向かう力・人間性等」について、主要な要素や要素間の関係を構造化して分かりやすく示す観点から、下記の4つの要素により整理する方向性が示された
- 企画特別部会における議論の過程では、「学びに向かう力・人間性等」が単によりよい知の獲得に向けた力としてのみ捉えられてはならず、学習したことを踏まえて人生や社会に向かう際の情意・感性に係る側面も重視すべきとの強い意見があった



- また、論点整理では、「学びに向かう力・人間性等」の学習評価に関し、個人内評価を基本とした上で、学びに向かう態度に関わる下部の3要素については、学習評価において、「思考・判断・表現」の過程で特に表出した場合には「○」をつける方向で検討するとされている
- 「学びに向かう力・人間性等」は、学習指導要領の「内容」に原則として記載がなく、学習評価に当たっては教科等の「目標」を踏まえて行うこととなるため、そうした点も踏まえた「目標」の書きぶりが重要

※ 現行、各教科等において育成する「学びに向かう力・人間性等」は、個別の学習内容に応じて異なることが想定されにくいため、原則として各教科等の「目標」水準でのみ記載されている。こうした性質は、今回の論点整理に伴って変わるものではない。

2. 1. を踏まえた目標における書きぶり

- 1. を踏まえると、「学びに向かう力・人間性等」の目標については、全ての要素を個別に盛り込もうとすることで冗長となることを避けつつ、以下の2つの要素をバランス良く含めることとしてはどうか

① 当該教科等の学習で育みたい学びや生活に向かう態度

学びにおいて、好奇心を持って初発の思考や行動を起こし、他者との対話や協働を経ながら、学びを主体的に調整し、次の思考や行動に繋げていく態度について、教科固有の学習過程を踏まえた言葉で示す
(現行の例：自然の事物・現象に進んで関わり、科学的に探究しようとする態度（中・理科）)
→学びに向かう態度に係る3つの要素を踏まえた見直し

② 当該教科等の学習で育みたい情意・感性

人生や社会との関わりにおいて育みたい情意や感性を示す
(現行の例：自然を愛する心情（小・理科）、明るく豊かな生活を営む態度（中・体育）など)

- 一方、現行でも、複数分野を有する社会科など、多くの内容が盛り込まれ目標の書きぶりが複雑な教科もある中、分かりやすく使いやすい学習指導要領を目指す上では、今回の見直しで一層複雑となることは避ける必要
- こうしたことを踏まえ、目標については、表形式となることも踏まえ、箇条書きも利用して分かりやすく構造化することを可能としてはどうか（この点は知識及び技能、思考力、判断力、表現力等の目標も同様）

体育の資質・能力の改善イメージ

現行

知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等
○ 運動・スポーツの実践や健康や体力の保持増進・豊かなスポーツライフに関する知識及び技能	○ 運動・スポーツ及び健康に関する思考力、判断力、表現力等 (運動実践につながる態度に関する思考力、判断力、表現力等を含む) ※中高	○ 主体的に学習に取り組む態度 (体育) (愛好的な態度 、公正、協力、責任、 参画 、 共生 、 健康 、 安全) ○ 主体的に学習に取り組む態度 (保健) ○ 感性、思いやり等



- ・ 態度に関する内容 (公正、協力、責任等) は、体育科において育むべき資質・能力として重要な要素。
- ・ 一方で、その「指導」と「評価」は、体育独自の内容 (公正、協力、責任等の要素) と全教科共通の側面 (「粘り強さ」と「自己調整」) があるなど様々な要素が混在し、教師の適切な理解に基づく「指導」と「評価」を難しくしているといった課題があった。特に、体育を専門としない小学校等の教師にとっては一層理解が難しい面があった。
- ・ また、例えば「公正に取り組もうとしている」等の意思的な部分に関する「指導」と「評価」については、態度を「指導」という意識が、公正、協力などの意義について児童生徒の十分な理解を伴わない形式的な「指導」を生んでしまうのではないかと懸念や、態度に関する内容の本質を踏まえた子供たちの意思の表出を適切に「評価」することの難しさがあった。



- ✓ 態度に関する内容の構成要素には、「概念知 (なぜ) 」や「具体知 (何か) 」といった「知識」の面や、実際の行い方といった「技能」の面があり、こうした面に着目して内容の一部を「知識及び技能」に位置づけし直すなど、資質・能力の中での再整理をすることにより、混在していた要素がクリアになり、態度の形式的な「指導」にとどまらず、公正、協力などの意義の本質的な理解に繋がるような「指導」の改善を図ることができるのではないかと。また、体育を専門としない小学校等の教師にも指導内容が分かりやすくなり、発達段階を踏まえた指導のさらなる充実に繋がることが期待されるのではないかと。
- ✓ こうした方向性は、対応する「知識及び技能」の記載がなく、指導・評価の難しさが指摘されている「運動実践につながる態度に関する思考力、判断力、表現力等 (中高)」の「指導」と「評価」の改善にも寄与するのではないかと。
- ✓ 「**愛好的な態度**」は、運動やスポーツに「する、みる、支える、知る」等の多様な関わり方で親しむ姿等を一層積極的に価値づけることに繋げる観点から、例えば、「運動・スポーツに多様な関わり方で親しむ態度」などと示してはどうか。

改善イメージ

知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力・人間性等
○ 運動・スポーツの実践や心身の健康の保持増進・豊かなスポーツライフ等に関する知識及び技能 (公正、協力、責任、参画、共生、健康、安全 といった運動・スポーツとの関わり方に係る知識及び技能を含む)	○ 運動・スポーツ及び健康に関する思考力、判断力、表現力等 (運動実践につながる態度に関する思考力、判断力、表現力等を含む) ※中高	○ 運動・スポーツに多様な関わり方で親しむ態度 (仮称) ○ 主体的に学習に取り組む態度 (保健) ○ 感性、思いやり等

全ての教師に分かりやすい形とし、本質的な資質・能力を育成

運動・スポーツに多様な関わり方で親しむ姿等を一層積極的に価値づけ

体育・保健の新たな「学びに向かう力・人間性等」の要素（案）

学びに向かう力・人間性等

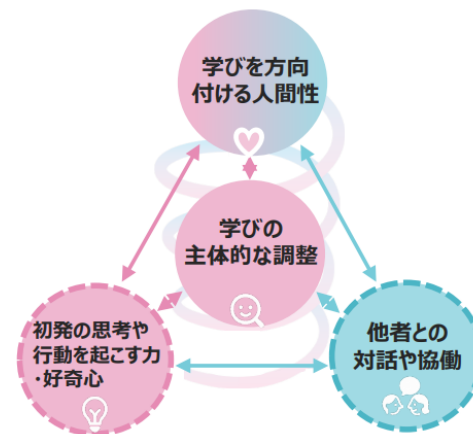
変化の激しい不確実な社会の中で、学びを通じて自分の人生を舵取りし、社会の中で多様な他者とともに生きる力を育むことを目指し、以下のとおり**主要な要素**等を整理。

①当該教科等の学習で育みたい学びや生活に向かう態度

学びにおいて、好奇心を持って初発の思考や行動を起こし、他者との対話や協働を経ながら、学びを主体的に調整し、次の思考や行動に繋げていく態度
(学習過程で表出しやすい傾向がある外的な側面)

②当該教科等の学習で育みたい情意・感性

人生や社会との関わりにおいて育みたい情意や感性
(学習過程で表出しにくい傾向がある内的な側面)



【上部】当該教科等の学習で育まれる、人生や社会に向かう際の情意や感性に関わる部分(学習過程で表出しにくい傾向がある内的な側面)

【下部】当該教科等の学習で育まれる、学びに向かう態度に関わる部分(学習過程で表出しやすい傾向がある外的な側面)

<留意点>

- ◎「目標」水準で記載する
- ◎複雑な記載となることを避ける
- ◎箇条書きを利用することも検討
- ◎原則として個人内評価で見取る

現行 ※中学校の「学びに向かう力・人間性等」の目標

生涯にわたって運動に親しむとともに健康の保持増進と体力の向上を目指し、明るく豊かな生活を営む態度を養う。

資質・能力の改善イメージ（再掲）

知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力・人間性等
○ 運動・スポーツの実践や心身の健康の保持増進・豊かなスポーツライフ等に関する知識及び技能 (公正、協力、責任、参画、共生、健康、安全といった運動・スポーツとの関わり方に係る知識及び技能を含む)	○ 運動・スポーツ及び健康に関する思考力、判断力、表現力等 (運動実践につながる態度に関する思考力、判断力、表現力等を含む) ※中高	○ 運動・スポーツに多様な関わり方で親しむ態度（仮称） ○ 主体的に学習に取り組む態度（保健） ○ 感性、思いやり等

要素イメージ ※次回以降の目標の議論のもととなる要素

① 当該教科等の学習で育みたい学びや生活に向かう態度【要素】

- ・ 既存の知識や経験等を土台として、初発的な思考や行動を起こす態度
- ・ 教師や指導者を含む他者と関わったり、関係する情報を書籍等から得ながら課題に取り組もうとする態度
- ・ 自身の思考や行動等を客観的に把握し、自己調整しながら課題等に取り組もうとする態度
- ・ 運動・スポーツとの多様な関わりや、それらを通じた人との関わり等に親しみ、その良さや価値を味わおうとする態度

② 当該教科等の学習で育みたい情意・感性【要素】

- ・ 運動・スポーツを、多様な関わり方を前提として生活の中に取り入れ、自身の状況等に応じた心身の充実に努めながら、明るく豊かな生活を営もうとする態度
- ・ 生涯を通じて心身の健康の保持増進及び回復を目指そうとする態度
- ・ 活力あふれる健康長寿社会・共生社会や安全で安心な社会を実現し、社会全体が持続的にウェルビーイングである状態となることに向けて、その環境づくりに主体的・協働的に参画しようとする態度